

新世紀 3 年目の想い (協同組合通信/元旦号) 15.1.1

21 世紀も三度目の元旦を迎えた。先ずもって無事を感謝し、新年を寿ぎたい。2000 年問題で、世紀末はどうなるのかと世界中が大騒ぎした 1 件は、日付変更線付近、赤道直下の南太平洋は島国の長閑な夜明とともにあっさり落ち着いた。明けて新世紀のスタートはおっかなびっくり、若葉マークのドライバー然としていた。

新世紀も 3 年経って、少しは変わる時代の流れに竿さしたい。

新時代 3 回目のけじめの朝に、多少は海図も落ち着いて眺めて見よう。

人皆、本人の意思とは関わりなく何処かから何処かへ行こうとしている。

ならば、自らの手でコンパスを持ち、思うがままにチャートへ航路を描き、未知の大海へ乗り出す決意をしようじゃないか。

2002 年を表わす言葉に「帰」が選ばれた。原点回帰への見えざる心の表れか。「温故知新」は知られた言葉。

大企業の巨悪と身勝手、一時拍手喝采のパフォーマンス議員のちんけな失態や権威と思われていたことが失墜した。栄枯盛衰会者定離。世紀が改まっても、人の行うことは昔と何ら変わっていない。企業や組織の大小、男女の差、人間の能力に大した差などないことがはっきりした。一人一人が、お天道様に恥じない生き様をすれば良いのだろう。よって生れ落ちてきたことを感謝し、何か足跡を残す一年にしたい。

現代人には、2 点の大きな変化とツールが共有されている。インターネットの出現、携帯等モバイル端末の普及によって、老若男女人種に関わりなく、情報をどのようにこなせるか。それぞれの選択肢の中でいかに最適な解を掴み取るかは、自らの能力責任にかかっている。それも瞬時の判断を要する場合が多々出てくるだろう。しかも立場状況で、千変万化するから共通する答えなど決してないと思う。IT の醍醐味と恐さが同居する情報社会だ。

このことは、実は昔から、等しく与えられていたようだ。

1800 年ほど前の中国、三国志の覇者は魏であるが、初代の曹操は卓越した情報処理と得意の文才で、蜀・劉備と呉・孫権を凌駕し国の礎を築いた。

古きを尋ねて新しきを知るとは、平易な言葉であるがなかなか味がある。

この論論たれば、本論弾の目指す海路は自ずから見えてきはしないか。駄文を草す一人として、その任未だ果たせず恥多いが、肩肘はらず思うが儘に生き様をさらしてゆこうと思う。

本誌の一層の充実発展と読者が健やかなる日々を過ごされんことを祈りたい。

(気象情報システム株式会社 高津敏)